



一昨年正月に発生した能登半島地震は大規模災害時の地域の孤立の深刻さを浮き彫りにした。厳寒の中、水も電気もない生活が10日以上続いた集落もあった。復旧が遅れ孤立が長期化する。災害関連死の危険度が高まる。平時から行動計画の策



災害で孤立集落が生じた際にドローンで物資を運ぶ訓練。2025年8月20日、臼杵市前田

定や備蓄、避難訓練などの「事前防災」に取り組み必要がある。大分県では全集落の3分の1に当たる1202集落が孤立する可能性がある。山間部と海岸線が多く集落へのアクセス道路が限られる地形は、全国的に見ても孤立リスクが高い。南海トラフ巨大地震が発生すれば、多くの地域が一時的に「陸の孤島」となる恐れがある。能登半島地震の教訓を踏まえ、県は2025年3月に「大規模災害発生時の孤立集落対策指針」を改定した。市町村別では臼田市が251集落で最も多く、佐伯市170、玖珠町120、中津市100などが続く。臼田市では土砂災害時などのように避難するなど地域ごとの防災行動計画づくりは進んで

論説

2026.2.2

災害時の孤立集落対策



いるが、備蓄は市の出先機関にとどまる。津波で沿岸部の孤立が懸念される佐伯市は、住民の避難や備蓄に対する意識は高いものの、避難所への分散備蓄はやはり十分とはいえない。これに対し、大分市は指定避難所に食料や資機材を分散配置。住民情報の把握が進み、体制

平時から継続的な備えを

整備が比較的整っている。対策の進捗よくにはばらつきが生じる背景には、集落数や地形条件の違いがある。国や県は財政支援や専門的助言を通し、すべての自治体が実情に応じた備えを進められるよう後押しすべきた。また大規模災害時には公助が届くまで数日かかる。孤立の長

期化も想定し、自助と共助を基本とした備えが重要となる。少なくとも3日以上生活できるよう、家庭と地域の双方で食料や水、携帯トイレ、毛布などの備蓄を進めたい。高齢者や身障者、乳幼児など要配慮者への気遣いも欠かせない。さらに携帯電話やスマホが使

えない場合に備え、防災ヘリが上空から確認できるサイン旗(赤・黄色・緑四方)の準備や、指定避難所への移動系防災無線の導入が求められる。ヘリや船舶の離着・着岸拠点の事前確保も救援の迅速化に役立つ。非常時の混乱を最小限に抑えるには、自治体が孤立の可能性

がある集落の実情を把握しておくことが不可欠となる。区長や班長の連絡先、世帯数、要配慮者の人数、備蓄や資機材の整備状況なども事前共有すべきた。佐賀関大火の避難の際に見られた助け合いの精神は、大規模災害時での自助と共助の重要性を多くの市民に印象つけた。災

害は備えの不足を容赦なく突いてくる。孤立集落対策は平時からの継続的な備えが鍵を握る。インフラの耐震化や治山・治水で災害の威力を抑えるハードと、訓練や情報で人命を守るソフトの両面で、災害時の地域の孤立化と災害関連死を防ぎたい。



〔問①〕 記事では、大分県内の集落はどのような地形によって全国的に見ても孤立リスクが高いと指摘していますか。

〔問②〕 記事を読んで下記の文章の（ ）に適切な言葉を入れましょう。

大規模災害時には（ ）が届くまで数日かかる。孤立の長期化も想定し、（ ）と（ ）を基本とした備えが重要となる。佐賀関大火の避難の際に見られた（ ）の精神は、大規模災害時での（ ）と（ ）の重要性を多くの市民に印象づけた。

〔問③〕 大分県は南海トラフ巨大地震などの大規模災害に限らず、大雨による水害や土砂災害、地震、火山活動など多くの自然災害の可能性があります。日頃からどのような準備が必要かを考え、自分がやるべきことを書き出してみましょう。また、学校や地域の人と協力して準備することについても考え、または話し合って書き出してみましょう。